

令和5年度授業改善推進プランの評価(1学年成果と課題) 文京区立第三中学校

成 果 と 課 題	
国語	<p>グループで友達と話してから書く、小集団で発表してから全体の前で発表、というように段階を追って発表につながる活動を行ったところ、よく取り組んでいた。また、年間を通して継続してきた漢字の指導(ノート指導、小テスト)は、習慣として定着している。</p> <p>課題は、一人一台のタブレットを活用する場面が少なかったことである。宿題を Teams で提出するなど、国語の授業の中でも使う必然性のある場面を増やしていきたい。</p>
社会	<p>教科書を使用して、文章や資料を読み取る力が付くように指導を重ねてきたが、なかなか力が付かない。今後も文章や資料を読み取る力を丁寧に指導していく。小テストを実施し学習したことがらを復習させ、知識の定着を図るようにしていく。電子黒板を使用して、生徒の関心を高めるよう努力した。身近な地域についてタブレットを使用し、グループで協力してレポートを作成させた。今後もタブレットを使用し、資料活用の力やまとめる力を付けるような授業を取り入れていく。</p>
数学	<p>Teams での課題の配布や提出など、個人タブレットの活用を促進した。ほとんどの授業でデジタル教科書を活用し、デジタルコンテンツを用いて学習を進めている。定期考査の前後には学習の取組を記入し、計画的に学習に取り組むようになった。今年度の取組を継続しつつ、来年度はより意見共有などの取組を進めたい。</p>
理科	<p>実験で結果に関する考察(なぜ実験の結果がこのようになったのか、どんな性質がありそうか等)を自分の言葉で考えて書くことを続けたことで、結果から考察しレポートに表現することに関して成長がみられた。また、実験を楽しみつつ意欲的に取り組んでいた。今後は振り返りの場面で生徒同士教え合い、理解を深められるような活動をいれたり、ICT 機器をさらに活用したりすることでより理科への興味をひける授業を目指す。</p>
音楽	<p>歌唱や器楽ではペアや小グループで教えあう活動、鑑賞では意見交換する場面をできるだけ多く設定した。互いの考えを共有し、認め合うことで、その後の歌唱表現やギター演奏に自信をもって積極的に取り組めるようになった生徒が増えた。また、毎時間記入している自己評価シートへの記入を通して、個別にアドバイスすることで次時への意欲を更に促し、技能の向上に繋げていく。</p>
美術	<p>授業や課題に対して前向きに取り組む姿勢が増してきた。ねらいを意識しながら主体的に学習に臨む生徒が増え、制作が遅滞している生徒も助言や手伝いなど、生徒同士が互いに助け合いながら活動することができた。絵の具を始め様々な描画材料や用具の使い方を学び、繰り返すことで基礎的・基本的な内容を身に付けながら、色の学習やポスター、パズルでは意欲的に作品を仕上げた。また、書画カメラを活用し、技法や表現方法なども分かりやすく説明し、興味をもって取り組む生徒が増えた。今後はより発想を豊かに、創意工夫しながら制作することを支援し、知識及び技能の向上を図る。また、理解や制作に時間がかかる生徒に対して、より一層の個別指導に心掛ける。</p>
保健体育	<p>知識の定着を図るため、単元ごとのまとめシート(学習カード)を作成した。特に、実技については、授業で学習した内容を振り返る活動を設定することで、知識の定着を図った。また、本時で学習した内容を自分のことばで振り返ることで、学習した知識を「活用」する力の育成に力を入れた。生徒自身での振り返りの活動が多くなっており、今後は、他者との関わりの中で振り返る機会を設定することが重要である。</p>
技術	<p>三中スタイルに沿って、電子黒板を多くの時間で活用し、単元の解説や実習の製作方法説明を行った。また、完成教材の見本を提示することで、視覚的にもわかりやすくし、スムーズに実習を進められ、作品の完成度をあげさせることができた。ものづくりの学習では、多くの生徒が活発に意見を述べ、順調に進められた。協働活動においては、コラボノートの活用を行えた。課題としては、実習において、作業効率の向上が挙げられる。作業内容の最適解を考えさせ、丁寧に取り組むことと、効率の向上とのバランスを意識させることが必要である。また、授業毎の技能や知識を振り返るように指導し、次の授業に参加するように心がけさせていく。</p>
家庭	<p>中学校に入学し、家庭科の意義は、日常生活がすべての活動の土台であることを確認し、授業以外でも、自分の生活を振り返ることのできる課題を設定した。衣生活領域ではよりよい生活の実現や、持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し実践する力を身に付けさせた。食生活領域では、調理実習を実施し、グループ活動を通し協力して、課題解決をする場面が多く見られ、授業に対する主体性を高めることができた。住生活領域では、生活様式が多様化しているため、一人ひとりの生徒が異なる生活課題を解決するには、生徒自らが自分の生活の様々な問題の中から課題を設定し、その解決方法を検討し、計画を立てて実践するとともに、その結果を評価・改善することが繰り返し求められると感じたため、そのことに沿った授業案を考える必要がある。</p>
外国語	<p>自作の ICT 教材を活用し、新出文法を聞くことにより推測、理解させ、繰り返し練習することにより定着させた。単語テストをおおむね毎週行い、間違えた単語を練習させて提出させることを継続して行った。これらを通して身に付けた技能を友達や A L T との会話で活用させ、コミュニケーションに対する意欲とやり取りを広げる力を高めさせた。スピーチ、プレゼンテーションなどの活動を通して表現力を高めさせている。思考・判断したことを表現する取組をさらに進めていく。</p>